
もしも桃太郎のお供が世界3大妖怪だったら

Mr.

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしも桃太郎のお供が世界3大妖怪だったら

〔ZΠ-〕

N
0
5
9
8
G

【作者名】

M
r
•

【ねりあご】

タイトル通り！お供が世界3大妖怪です

昔々あるとこで、おじいさんとおばあさんがいました。

おじいさんは山へ薪刈りに

おばあさんは川へ洗たくに行きました。

おばあさんが洗たくしていると、川上から、桃が流れきました。

おばあさんは拾い上げ、家へ持ち帰りました。

おじいさんが帰ってきて、桃を開けてみました。

すると中から、元気な男の子が泣いて出てきました。

その男の子は、「ご飯を食べるとすくすく育ち、結構大きくなつた。

すると、そのころ町には鬼が家の金目の物を盗んでいました。

桃太郎は、鬼退治に出かけました。

桃太郎が歩いていると、茂みの中から、オオカミが飛び出てきました。

「そここの坊や、何か食べ物をちょうどだい。」

桃太郎はいやいやおばあさんからもらつたきび団子をあげました。

「ありがとうございます。お礼に、お供します！」

2人が歩いていると、棺桶がありました。

2人は顔尾を合せ、棺桶を開けてみました。

ガチャ

すると中には、ドラキュラがいました（ねてる）

「ん？私の眠つていてる時に、棺桶を開けるとは…。何か食べ物くれたら許す！」

桃太郎はまた、いやいやきび団子をあげました。

「センキュー！お礼にお供します！」

3人が歩いていると、台の上に人が倒れていきました。

「ハラ…ヘッタ…ナニカ…ク…レ…。」

桃太郎は毎回のようにいやいやあげました

「私の名はフランケン・シュタイン！お礼に…。」

「お供します！だろ！？」

4人は歩いていると、やつと海につきました。

「日の出だ」

「やばい！棺桶に入らなきや！」

船を出して、棺桶ごと乗せました。

桃「ところで、お前！誰だよ！」

狼「私は、狼男。月の光がないとオオカミになれないの。」

桃「へい。で、何でお前は、棺桶入つてんの？」

ド「わたくし、日の光を浴びると、砂になつて、考えるだけでも怖い……。」

桃「……。で、何でお前だけ何もないの！？」

フ「さあ？」

こんな話をしているうちに、鬼が島に着きました。

全員「たのもー！」

鬼A「なんだ？」

鬼B「妖怪！？」

鬼C「D」「E」「F」「G」「H」「I」「J」「K」「L」「M」「N」「P」「Q」「R」「S」「T」「U」「V」「W」「X」「Y」「Z」はははははは！俺

たちに勝てるかな！？」

鬼残り「追い返し……」

桃「突撃！」

フ「おー」

桃「何でお前ら行かないの！？」

狼「月ないから戦えない。」

ド「日の光が差し込んでるからムリ。」

桃「だらしね。」

フ「全員倒したぞー！」

桃「……。フランケンをみならえー！」

フ「大将にかつたどー。」

桃「……。」

E
N
D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0598g/>

もしも桃太郎のお供が世界3大妖怪だったら

2010年10月16日00時17分発行